



でい・ふれあい・ささえあい
困ったときは おたがいさま

ハローユーアンドアイ

令和7年11月発行

発行元：NPO 法人ユーアンドアイ
発行元責任者：赤津 猛

第106号

私たちは・・・

歳をとっても 障がいがあっても 住み慣れた地域の中で その
心豊かに暮らしていける そんな新しい“ふれあい社会”を目指しています。



代表 赤津

今年の夏も、昨年以上の猛暑で、10月に入ても暑い日が続いておりましたが、皆様にはお変わりなくお過ごしいただいておりますでしょうか。

昨今、世界で活躍する日本人のニュースが多く報道されています。中でもメジャーリーグで活躍する大谷翔平選手の連日の活躍には、驚かされ、楽しませていただいております。野球にまったく興味のない方々でも、大谷翔平選手の名前は一度は聞いた事があるかと思いますが、ぜひBSテレビで全試

合放送されていますので、見てみてください。宜しくお願い致します。

大谷翔平選手の素晴らしい点は、野球での結果・成績はもとより、考え方や一日一日の地道な積み重ねが、多くの方々に共感されているからだと私は思います。これから日本人選手の更なる活躍を願っております。

そしてユーアンドアイでも、当事業に携わっている職員はじめボランティアの皆様の発足当初から26年続いた地道な積み重ねがあったからこそ、素晴らしい事業に繋がっていると思います。これも一重に皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



訪問介護ステーションは、現在世の中から一番必要とされている介護事業と考えており、サービス提供責任者やヘルパーさんを増員し、受け入れ利用者さんの枠を増やすことにより、更なる増強を図っており、皆様の要望にお応えできるよう進めております。

また、学校支援事業においても、支援員さんのお力により、充実した支援を提供する事が出来、強い柱となっております。

今後も「でい・ふれあい・ささえあい、困ったときは、おたがいさま」の理念のもと、皆様と一緒にになって、より良い「新しいふれあい社会」を目指せるよう、頑張ってまいります。これからも、宜しくお願い申し上げます。



・・・・教育支援 支援員制度 活動報告・・・・・・・・・・

ユーアンドアイでは、教育委員会からの受託事業として、25年前から普通学校に就学する障がいを持つお子さんの学内での生活支援を行っています。今年度は市内6つの小学校と1つの中学校を担当させていただいている。

今年の夏は6月下旬から真夏のような暑さが始まり、7月に入ると連日のように熱中症アラートが発令される状況の中での学校支援でした。子供たちが楽しみにしている水泳学習も、気温が高すぎて入れない日もあり、入れるという日にも、強い日差しの下、首にタオルを巻きながらプールサイドから子供たちの安全確保のために数多くの支援員が見守支援を続けてくれました。水泳学習ができない日は、サウナのような体育館の中での支援に当たってくれ、熱中症のリスクのある中で、約50名の支援員がそれぞれに担当の子供たちに寄り添い過ごしてくれました。



そして夏休みが明けた9月も引き続き35度近くの気温の中、今度は運動会の練習が始まりました。支援員たちは、担当する子供たちの障がいの特徴に合わせ、どのようにしたらその子の参加しやすい形になるかを先生と一緒に考えながら練習を重ねます。1日中立ちっぱなしでの体育の支援になりますが、担当児の体調にも配慮しながらの練習に当たってくれています。「やった」「できた」、全てを言葉にしてくれるわけではないけれど、子供たちのキラキラした笑顔や、自信に満ちたまなざしを目にするなどを楽しみに、試行錯誤を繰り返しながら、約50名の支援員は一日一日を子供達と共に歩んでくれています。(飯嶋)



・・・生活支援サポートセンター 活動報告・・・・・・・・・

ユーアンドアイは龍ケ崎市から委託を受け「生活支援サポートセンター」を設置し、3年目となりました。市の講習を受けた生活支援センター（家事サポ）を有償ボランティアとし、コーディネーターが利用希望者とサポートーをマッチングし、簡単な家事支援等につなげています。まだまだ課題が多く、市との話し合いを重ねながらの運営ですが、令和7年度の上半期では92件のお問い合わせのうち、76件を支援に繋げてきました。(前年同時期75件中52件)



また、センター用の専用エコバックを作り、士気を高めて取り組んでおります

・・・福祉有償運送 活動報告・・・・・・・・・

現在、訪問介護の利用者様限定に行っている送迎サービスは月に平均15件前後の稼働となっております。残念ながら、令和7年度の第1回のドライバー講習は参加希望者が最低実施人数を満たせず未開催となってしまいました。

また、より良いサービス提供ができるよう、事務所では定期的に話し合いをし、今年度は事業所の認証更新も控えております。

ドライバーとして、ぜひ参加をしたい方は事務所までお問い合わせください！



・・・介護ステーション 活動報告・・・

訪問介護では、ヘルパー13名、事務担当2名の合計15名で活動しています。

活動報告

訪問介護（ヘルパー）では、毎月1回研修会を行っています。

4月 記録の書き方について

5月 接遇マナーについて

6月 倫理及び法令遵守について

7月 認知症について

8月 熱中症対策と病気になった時

9月 感染防止と蔓延防止について

介護ステーションでは今後も色々な角度から学び、より良いサービスを提供して参ります。



8月6日に全部署合同で接遇マナーについて、外部講師をお招きして開催いたしました。



同じユーアンドアイの中においても、案外一堂に会する機会がない面々。

初めて会う人同士もいましたが、一緒にお弁当を食べ、学校支援員、訪問ヘルパー、生活支援サポートと和気あいあいと受講しました



新しくできた市役所の福祉棟Rinkの3Fをお借りして百香亭でお弁当をお願いしました。

講師は介護労働安定センター様から派遣していただきました

【年末年始のご案内】

2025年12月27日（土）～2026年1月4日（日）は年末年始のため事務所はお休みになります。



まめちしき 秋こそ注意を！

食中毒がいちばん多く発生するのは、春・夏・秋・冬のうち、どの季節か？と問われれば、たいていの人が「夏」と答えるはずです。気温が高ければ、それだけ食べ物が腐りやすくなるから、当たり前のような気もしますが、正解は秋です。

食中毒の主な菌は、気温25度以上になると一気に増殖します。夏の間は、誰でも食品の管理には気を使っています。ところが、秋になり涼しくなると気が緩むのか、危ない食品を平気で口にしてしまい、その結果、食中毒になるというわけです。

さらに、秋は夏バテして体の抵抗力が落ちているということもあります。
いずれにせよ、食欲の秋こそ、食中毒にご用心。



～会員さんから会員さんへ～

学校支援員

加藤 理子さん

リレートーク



想定外の夏休み

今年の夏休みは私の実家がある岩手に行きたい！と、春から社会人になった息子が言ってきました。主人も何年も行っていないし、3人で旅行はいつ以来だろう？

父が眠る一ノ関の山でお墓参りして、一泊してから盛岡に向かおうと計画し、早速ネットで検索すると、山のすぐ近くにとっても素敵な温泉宿を見つけ、新幹線のチケットも手配。ハイシーズンなお盆の時期なので、イタい出費だけどどうがないと割り切り、とても楽しみにしていました。

しかし、出発の一週間前。都内で一人暮らしをしている息子から発熱の連絡が。経口補水液もなく、心細い様子でしたが食欲あるから大丈夫かな、今までのパターンだと2、3日で治るはず。

翌朝、近所の病院で診てもらうもインフルエンザでもコロナでも無く、風邪と言わされたとの事で様子を見に行き、龍ヶ崎の自宅へ一緒に帰宅することに。夜中には人生初の40度越え。

翌日、再度病院へ行き再検査をするも、やはりインフルエンザもコロナも陰性、血液検査も異常無しで、解熱剤が処方され、3日後解熱しなかったら精密検査との事。夜になるとまた40度になったので解熱剤を飲んで38度台に。

不安になりネットで検索すると怖い病名がたくさん出てきて、心配で眠れなり3日後まで待てずフライングして病院へ。その日は喉が痛く耳鼻咽喉科に案内され、そこで先生が喉を見たら一発で扁桃炎と診断されました。原因がわかりひとまずホッとしました。

本人もホッとしたのか、午後には平熱まで下がり、この調子なら岩手行けるね！明日一旦東京戻るから駅でお土産買っておくよ、なんてウキウキで話していました。ところが翌朝、寝汗びっしょりで起きてきて、また40度まで上がった息子。

出発を翌日に控え、この調子じゃ無理だね…今日は諦めよう。とっても残念だけど。素敵な温泉宿も新幹線も全部キャンセルしました。（キャンセル料が…泣）

熱はその後2日ほど続き、ようやく平熱に落ち着きました。初めての扁桃炎、こんなにも熱が上がったり下がったりするなんて。息子は夏休み前に会社を一週間休む事となり、有給も使い果たしてしまったと嘆いていましたが、怖い病気では無かったので、本当に良かったと、心からご先祖様に感謝したお盆休みとなりました。

ご意見・お問い合わせは…

NPO 法人ユーアンドアイ

（平日 9:00～18:00）

茨城県龍ヶ崎市奈戸岡2番地195
TEL 0297-62-2667
fax 0297-62-2698

編集後記

秋の連休に温泉宿に旅行に行きました。以前も行ったことのある宿でしたが、温泉が全貸切家族風呂に改裝されていてビックリ！せっかくだから家族全員で入浴しましたが、子供たちがまだ小学生だからできる貴重な体験だなと少し寂しい気持ちになりました（遠藤）